

令和2年度第1回八千代市歯と口腔の健康づくり推進会議 会議録

開催日時 令和2年11月19日(木) 13:30~14:45

開催場所 八千代市保健センター 1階 大会議室

会議次第 1 開会挨拶

2 議題

1) 2年間の総括について

(1) 各部会の取り組み

(2) 各委員の所属団体や自身での取り組みについて

2) 歯科医師講話

3 事務連絡

4 閉会

出席者

〈委員〉 平出功 中澤正博 鷲二郎 沼尻悦子 坂田英子 北田文恵
松田史帆 根川恵美 近藤亮太 立川誠一 大岩杉子 木下功
尾山重美 市川博康 阿部裕一 笠井幸恵 (16名)
〈事務局〉 子ども部：原久見子 大澤温子 山下綾香
健康福祉部：毛塚早苗 春山真木子

公開又は非公開の別：公開 傍聴人：0人(定員 5名)

所管部課：子ども部母子保健課 TEL 047-486-7250

(事務局) 大澤

みなさまこんにちは。定刻となりましたので、令和2年度第1回八千代市歯と口腔の健康づくり推進会議を開催いたします。

本日の司会進行を勤めさせていただきます子ども部母子保健課の大澤です。よろしくお願いいたします。

会議に入る前に委員のみなさまにお知らせいたします。本日の会議は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領の規定により会議を公開とするものとし、会議録作成のため会議の状況を録音させていただきますのであらかじめご了承ください。

なお、録音機とマイクを接続している関係から、ご発言いただく際はマイクのボタンを押して、マイクのランプが点灯してからご発言をお願いいたします。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスク着用のままのご発言をよろしくお願いいたします。ご発言いただいた際は、恐れ入りますがお手元のアルコール綿でマイクのボタン等お手を触れた箇所をお拭きいただきますようお願いいたします。

なお、本日は成人・高齢者部会の早川委員・溝口委員が、母子部会の有馬委員・榊委員が所用によりご欠席とのご連絡をいただいております。

また、本日は令和2年度の全体会の初回となりますが、今年度から異動等により新たな委員をお迎えしましたのでここでご紹介させていただきます。母子部会の八千代市児童発達支援センター 近藤亮太委員。成人高齢者部会の八千代市PTA連絡協議会 大岩

杉子委員，八千代市障害者支援課の笠井幸恵委員，本日欠席ですが八千代市地域包括支援センターの溝口恵里委員です。委嘱状は事前にお渡しさせていただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

また，事務局職員も異動がありましたのでご紹介いたします。健康づくり課の毛塚課長です。よろしくお願いいたします。

なお，毛塚課長は所用により 13:50 に退席することをご了承ください。

それでは，これより議事進行を平出会長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

1 開会挨拶

(会長)

さて皆様ご承知のように，昨日新たに 2000 人以上の新型コロナウイルス感染者が確認され，過去最多を更新しました。2000 人を超えるのは初めてです。全国的に感染拡大に歯止めがかからない状況であり，これを踏まえて急遽本日開催予定のこの会議を书面開催，もしくは来年に延期を検討していただいたのですが，予定通りの開催となりましたことをご理解ご了承お願い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックが引き起こされ，免疫のない未知のウイルスのため，健康被害だけでなく，これに伴う世界的影響も甚大なものになっております。いまだ収束の道筋が見えず，むしろ冬場に向け新型コロナウイルスの新規感染者が増加しており，換気と加湿の重要性が指摘されています。また，新型コロナとインフルエンザの同時進行に備えた対策なども必要になってきています。新型コロナウイルス感染症対策は長期にわたり，気の緩みも懸念されていますが，気を引き締め，引き続きこの冬を皆様とともに乗り越えて参りたいと考えております。

現時点で，八千代市市民の歯と口腔の健康づくり推進条例第 6 条基本的施策関連指標の目標値をどこまで達成しているか気になるころではございますが，すべての目標値を達成するために，今後とも委員の皆様のお知恵を拝借して，第 2 次健康まちづくりプランを推進し市民の皆様が健康で文化的な生活を営み，生きていることの幸せをみんなが実感できるまちを目指して市民関係機関，行政の皆様とともに力を合わせて参りたいと思います。

八千代市が元気になるためには，市民の方々の生涯を通じた健康づくりへの意識の向上が必要不可欠です。何卒よろしくご協力のほどお願いいたします。

本日はどうぞよろしくお願いいたします。

それでは会議次第に従って，進めていきたいと思っております。初めに，本日の資料の確認を事務局よりお願いします。

(事務局) 大澤

資料は，式次第，委員一覧，令和元年度歯と口腔の健康づくりの取り組み，「令和元年度八千代市歯科保健事業統計」の母子保健課分と健康づくり課分がございます。また，中澤委員より資料の提供がございます。

資料の確認は以上です。不足などございましたらお知らせください。

(会長)

これより議題に入ります。

2年間の総括ということで、各部会の取り組みについて事務局よりお願いします。

2 議題

議題 1) 2年間の総括について

(1) 各部会の取り組みについて

(事務局) 山下

事務局より各部会の取り組みについて説明させていただきます。前方のスライドをご覧ください。

令和元年、2年度の2年間、全体会を今回含め2回、今年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため部会は開催しておりませんが、母子部会を1回、成人高齢者部会を1回開催し、歯科保健の推進についての協議・検討を進めてきました。その中ででの取り組みについて、まず母子部会よりご報告をさせていただきます。

令和2年1月に行った母子部会では、乳幼児、小中学生の歯科保健の様々な課題を解決するため、保護者の意識を高める効果的なアプローチ方法について委員の皆様と意見交換を行いました。

歯科保健の課題の中でも、良く言われているのが、むし歯が1本もないお子さんが増える一方で、1人でたくさんむし歯を持っている子が増えているという、むし歯有病者の二極化や、歯科健診有病者における治療の低さ、学校歯科健診以外での定期的な歯科健診受診者の割合の低さなどがあります。

必要性は感じているものの受診行動につながらない、または無関心層である保護者へ、どのようにアプローチすると効果的か、今回は、アイデアを出したい場合や問題点を列挙したい場合などに、複数人が集まって自由に意見交換するブレインストーミングによる話し合いにて行いました。

委員の皆様より出していただいたご意見には、一部抜粋ですが、近隣に歯科医院がない地域へ巡回相談を行うことや、健診受診者に特典をつけること、市の歯科衛生士の歯みがき教育を希望制ではなく義務化、むし歯のひどい子の保護者へ歯科医師より直接お便りを書く、など出していただきました。出していただいた意見の中で、今後取り組みが可能な事項としては、健康調査関係書類にむし歯の有無の追加をする、保健だよりの活用について挙げられました。委員のみなさまよりいただいたご意見を今後関係機関の皆様と共に、具体的にしていきたいと思えます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年3月より健診や健康教育などの母子保健事業を中止、延期としており、その中で歯科保健事業も同様に中止や延期をしておりました。そこで、コロナ禍における母子歯科保健の対応と取り組みについて報告いたします。

集団健診で実施している1歳6か月児歯科健診は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、厚生労働省の通知により令和2年3月～6月まで中止いたしました。1歳6か月児歯科健診は母子保健法に定められている健診であるため、中止した実施日の対象者517名への救済措置として、八千代市歯科医師会にご協力いただき、委託歯科医療機関

での個別健診を令和2年8月1日より実施しています。受診する際は事前に送付した利用券を委託医療機関に持参し、健診を受けます。受診期間は令和2年8月1日から令和3年3月31日までです。集団健診は感染防止対策を十分行ったうえで、7月より再開しています。

次に、個別にて実施している妊婦歯科健康診査と3歳児歯科健康診査は、緊急事態宣言を受け、八千代市歯科医師会と協議し、健診受診の自粛を周知しました。その後、緊急事態宣言の解除を受け、再開をしておりますが、母子保健法に定められている健診である3歳児歯科健康診査は受診期間内に受けられなかった対象児に対して、救済措置を令和2年6月1日より実施しています。

次に、妊娠期と乳児期の歯科保健に関する資料の公開についてです。初妊婦対象のプレママ教室にて歯科についての講話を行っておりますが、今年度の事業を中止したことに伴い、講話内容についてのパワーポイント資料を妊娠期編と乳児編に分けて、市公式ホームページに公開しました。妊娠期編では、妊娠中のむし歯予防や歯周病予防について、乳児編では歯が生え始めた時期や歯ブラシ開始時期のお手入れ方法やむし歯予防について掲載しています。ホームページの閲覧方法ですが、妊娠期教室資料の公開 八千代市で検索できますのでご覧ください。

取り組みではありませんが、健診や事業の中止などにより、相談する機会を失わないよう、個別での対応や電話相談などの母子保健課の相談先を案内したことにより、電話による歯科相談の件数が今年度は増加しています。4月1日～10月末までの、前年度と今年度の件数の比較になりますが、1歳未満までが13件から18件で5件増加、1歳以上6歳以下が13件から47件で34件増加、7歳以上が1人から5人で4件増加しました。緊急事態宣言が発令された頃から5月、6月に相談件数が多くありました。

最後に、例年ですと前年度の母子歯科保健事業統計について部会でご報告させていただいておりますが、今年度は部会開催を中止しており、また本日も感染拡大防止のため時間を短縮した会議運営を行っておりますので、資料のみの配布となることをご了承ください。後日お目通しいただき、内容につきましてご不明な点やご質問がありましたら事務局までお知らせください。

以上で報告を終わりにします。

次に健康づくり課より報告させていただきます。

(事務局) 春山

次に、健康づくり課より報告させていただきます。健康づくり課春山です。

成人高齢者の取り組みをご報告いたします。

令和元年度は、広報やちよで口腔がんとオーラルフレイルについて特集を組むなど、成人期の「歯周病予防」と「口腔がんの周知啓発」、高齢期の「口腔機能低下（オーラルフレイル）予防」を中心に取り組みました。

次に成人高齢者部会で行ったことをご報告いたします。

成人高齢者部会では、「歯科からのメタボ対策」ということをテーマに協議を行いました。早食いは太りやすいということが明らかになっており、八千代市の現状について情報共有

し、八千代市は特定健診の結果、国や県や同規模の自治体と比較して、早食いの割合がやや高いことがわかりました。これは高齢者も同様です。

次に、早食いにはどんなタイプがあるか、またタイプ別の改善方法を学びました。例えば噛む回数の目標を立てる、小さいスプーンを使う、ひと口ごとに箸を置くといった改善方法があることを学びました。

次に、高齢期では、オーラルフレイルという噛む・飲み込むといった口の機能が低下することを予防するために、ガムを噛むトレーニングを中澤先生よりご指導いただきました。実際に粒ガムをひと粒口に入れて、片方 20 回噛んだら、もう片方へ移動して、口を大きく動かしながら、合計 120 回噛むというものです。

こちらを体験した結果、委員さんからは、頭がスッキリした、普段片側だけで噛んでいたことに気づけたなどのご意見をいただきました。

ガムを噛むことは、メタボやオーラルフレイルの予防にもなるということで、無理なく続けられる方法を皆さんで考えました。方法としては、職場の机にガムのボトルを置いてみる、普段過ごす場所に置くことで続けやすくなるのではないかといったご意見が出ました。

ガム噛みトレーニングを行ったことで、噛むことというのは誰でもできるようで、意外と正しい噛み方をしていないのかも、ということに気づくことができました。ランニングも正しい方法を学ぶと良いタイムが出るということがあります。

正しい方法を教えてくださるトレーナーがいると、続けやすくだらうということで、歯科医院で指導を受けるといいのではないかとのご意見も出ました。

その他の事業につきましては、本日配布しました資料も、後程ご参照ください。

次に、今年度のコロナ禍における歯科保健活動をご報告いたします。

新型コロナウイルスの緊急事態宣言を受けまして、4月から6月までの健診や講座等を中止し、その期間は、市の健康情報メール等の媒体を活用して、健康情報を提供いたしました。5月に緊急事態宣言が解除された後は、段階的に事業を再開し、7月から成人歯科健診を、各歯科医院さんで再開していただいております。

また、8月ごろに活動を再開したやちよ元気体操グループへのアンケート調査なども行い、現状の把握に努めたところです。

外出自粛を経験したことで、歯科医院への受診を控えてしまうといったお声もあり、「受診控え」による歯科疾患の悪化ということを今懸念しているところです。

また、冬の感染症流行期に備えて免疫力を向上する必要があると考えております。そこで、コロナに負けるな食事と歯磨きで免疫力アップという講座を栄養士と歯科衛生士で企画して実施予定となっております。

また、12月15日号の広報やちよで、中澤先生にコロナ禍における口腔ケアの重要性についてご寄稿いただくことになっております。

様々な方法で市民の皆様に歯科保健に関して情報提供を続けていきたいと思っております。

(会長)

ここまでの内容でご質問やご意見はありますか。

(鷺委員)

母子保健課の報告で、電話で相談が増えたというお話がありました。その内容はどこかに記載されてますでしょうか。

(事務局) 大澤

公表はしていませんが記録しておりますので、次回以降、統計等に反映させていきたいと思えます。

(会長)

他にご意見ご質問ありますでしょうか？ないようでしたら、次に各委員の所属団体や自身での取り組みについて、事務局より説明をお願いします。

(2) 各委員の所属団体や自身での取り組みについて

(事務局) 大澤

事務局より説明いたします。2年間、歯と口腔の健康づくり推進会議の委員を担っていただきましたが、委員のみなさまの所属団体やご自身の生活の中で歯や口の健康について取り組まれたことや変化のあったことなどご報告いただければと思えます。特に今年度は新型コロナウイルス感染症対策で園や学校で行っていた昼休みの歯みがきを中止しているですとか、定期的に通っていた歯科医院をおやすみしている、ということもあったかと思えます。

また、2年間を振り返った感想、今後に向けてどんな取り組みをするとよいかなども、お考えをお聞かせいただけたらと思えます。

頂戴したご意見は、今後の取り組みのヒントとして活用して参りたいと思っております。

それでは順番に沼尻委員より反時計回りにお一人 1 分程度お話しただけですでしょうか。

(沼尻委員)

幼稚園協会の沼尻です。今日、園のお母さんに困っていることをお聞きしたら、歯がちょうど抜ける時期であり、抜けたところの磨き方が上手にできないが、歯が抜けるぐらいの年齢になるとお母さんに仕上げ磨きをさせてくれないとか見せてくれず、インターネットで調べても今一步そのやり方がわからずに適切なものはないだろうかということをご心配になられる方がいました。

また意外と歯科医院に行っていない子が多く、ちょっとそれはびっくりして、1年に1度は行こうねということはお話ししました。

(坂田委員)

民間保育協議会の坂田と申します。よろしく申し上げます。

いつもは毎年歯科衛生士さんに来ていただいて、歯みがき指導を実施していただいていたのですが、コロナの影響で中止になり、食後の歯みがきも飛沫が飛ぶため中止しており、

うがいは行っていきます。

歯科健診は毎年 6 月ぐらいに実施していましたが、コロナで延期し、先月やっと実施できました。歯科健診の結果としては、例年より少しむし歯が減っており、保護者の意識も上がってきたかと思います。

歯科健診の際に障害のあるお子さんの歯科受診について相談があり、ほぼ全部の歯がむし歯なのに口を開けてくれないため困っているそうです。歯みがきもさせてもらえないそうです。障害のあるお子さんへどのように受診を進めたらいいのかということも、今後わかったらいいかと思いました。

自分自身については、この委員になる前は定期健診は 2, 3 年に 1 回しか行けなかったのですが、意識するようになり、定期的に半年ごとに行くようになりました。

(事務局) 大澤

鷺委員、障害児の歯科治療についていかがでしょうか？

(鷺委員)

障害児歯科治療については、歯科医師会で協力医を募って健診並びにかかりつけ医になつていただける協力医を募っています。

そのリストは、歯科医師会の方でも、あと母子保健課や児童発達支援センターの方にも提供しており、ご相談を受けられるようにはなっております。

そして、我々一般開業医ができる範囲もありますし、なかなか重症だと難しい場合がありますので、支援病院の方をお願いをして、ちょっと、重症であったりとか、手のかかるお子さんに関してはそちらの専門医に診ていただくと、そういう仕組みにはなっております。

もしご相談いただければ、またそれに合わせて対応できるかと思しますので、ぜひお声をかけていただければと思います。

(北田委員)

小学校の養護教諭の北田です。本校でも、コロナ対策ということで休み時間に手洗いは徹底することになりましたが、マスクを外す機会はあるだけ少なくという形で、うがいや歯みがきは、飛沫に気をつけて周りに人がいないようにという形で行うようになっていきます。

夏休みには例年と同じように健康委員会のメンバーで歯みがきカレンダーを作って、朝昼晩 3 回みがけましたかというようなプリントを出しました。

また、全国歯みがき大会というのに毎年参加させていただいていますが、毎年 5 年生対象に授業をしており、今年度はコロナ対策ということで DVD を視聴して、実際に学校では歯みがきの練習とフロスの使い方はやらずに各家庭に持ち帰ってやる方法をとりました。家に帰ってからのお便りも配布しましたので、各家庭でやってみた子というのも半分以上はいました。

今後については、また冬休みに歯みがきカレンダー、健康かるたというのを作って啓発していきたいと考えています。

今年度は歯科健診が春にできなかったもので、2学期の9月に入ってから健診をしまして、年度末までに、どれだけ治療できるかというのを今後見ていきたいと思っているところです。

(中澤委員)

マスクを外すと飛沫が飛び、歯ブラシができないという事はいろいろ聞いていますが、もし可能であれば、ガム噛みトレーニングを取り入れてはどうでしょうか。キシリトール100%でむし歯にはなりません。そのようなガムを噛むだけでも自浄作用も働きますし、口の中は清潔になるかなと思います。ただ予算がかなりかかるのでご検討ください。

(松田委員)

大和田中学校養護教諭の松田です。

例年ですと6月に、保健委員会の子供たちの活動としてブラッシング指導というのを行っていたのですが、今年はコロナの影響で6月からようやく学校が再開したのでこれまでそういう取り組みはできていない状況です。

北田先生からもありましたが、健康診断の方も2学期になり、歯科健診はようやく本校は先週終わったところです。

ようやく結果の方も、子どもたちに渡せましたが、今年度健診をやって感じたのは1年生のむし歯が多かったことです。まだ数値として罹患率は出せていませんが、実感としてこれまでにない多さだなというのを感じました。

1年生は3月から学校が休校になっており、小学校と中学校の切り換えができないまま、4月5月も休校が続いていたので、家で過ごす時間も長く、そういったところでやはり生活習慣の乱れ等が歯の状況にも影響が出たのかなというのを感じております。

そういったところにも、コロナの影響が出ていると感じております。

今年度は残り少ないのですが、ようやく健診結果は渡せたので、1人でも多く治療に行ってもらえるように、この先働きかけをしていきたいなと思っております。

(近藤委員)

児童発達支援センターの近藤と申します。

例年通り、障害児歯科健診や摂食指導などの取り組みを児童発達支援センターの方でも行わせていただいておりますが、やはりコロナ禍によっていくつか取り組めてないところもあります。

特に東京歯科大学水道橋病院の摂食嚥下リハビリテーション教室の先生方に来ていただいている摂食指導についてですが、東京歯科大学水道橋病院の方針の方で直接施設に来園いただくことはちょっと困難になってしまいまして、現在リモート形式で指導を受けているような形になっております。具体的にはこちらの施設で園児の摂食嚥下の様子を撮影した動画を郵送しまして、その動画を見ていただいてコメントいただくような形になっていきます。

今後もコロナ禍でありながらも何か取り組めることがあればと思って今回勉強させていただければと思っております。

(根川委員)

八千代市立保育園の八千代台南保育園に勤務している根川です。

公立園でも今年度はコロナの関係で、4、5歳に対しての歯みがき指導やお昼の歯みがきの実施は中止しています。

ただうがいはしっかり行っており、歯科健診の方も先生方は都合つけていただきまして少し時期をずらし、年2回の歯科健診をしていただきました。

その中でも他の園で1歳児クラスのお子さんにむし歯のお子さんが何人かいたというお話ですとか、6歳臼歯にもむし歯ができていているというお話もあったので、やはり歯みがき指導をしっかりしていけたらと思います、今年度は歯科衛生士さんによる歯みがき指導が中止になっているため、各園で看護師の方でお話しだけでもということで、11月8日の歯の日に歯みがき指導を行ったり、歯の生えかわりについて、今生え変わっている時期だから大事だよというようなことを子どもたちに向けてお話をさせていただいたり、保健日より等でも、お昼の歯みがきができていませので朝晩の仕上げ磨きの方もしっかりとお願いしますということをお願いはしています。

(笠井委員)

八千代市役所障害者支援課の笠井です。

今年度から委員になりました。障害者支援課では障害福祉サービスを使う際の調査項目の中に口腔ケアという項目もあり、身体障害や知的障害の方で、口腔ケアをご自身ではしづらかったり、習慣化していないこともあります。

また、ご自身のADLでは動作的には可能でも、精神的な面で障害を抱えている方だと、歯みがきが3日に1度とか、1か月の中で1週間はできないことがあるとか、そういった病状によってもできない方がいらっしゃいます。

個人的には3歳の子がおり、今回のコロナの影響で2歳半の歯科健診が中止になったり、保育園の歯みがきが中止になったりと、自分でみがく練習だとか定期的に見てもらう機会が減ったということでもとても不安を感じました。

他には、早食い予防の方法や、ガム噛みトレーニングなど、仕組みがわからなくても行動の面で取り入れられることに取り組んでいくことができそうと感じました。

(阿部委員)

八千代市身体障害者福祉会の阿部です。

重症化リスクが高い方で特にいわゆる受診控えが多くあるような印象を持っています。

私の親も入れ歯の噛み合わせが悪くて食べ物が挟まったりということが実際に起きていますが、やはりコロナの感染が怖いので歯科医院に行きたくないと言っています。

運営しているはばたき職業センターという障害者の施設でも受診を控えている利用者がいます。今年度に関しては、歯みがき相談も中止になっている状況ですのでどうしたらいいのかなとじくじたる思いをしている最中です。

(市川委員)

八千代ケアマネネットワークの市川です。

私たちはケアマネージャーとして介護保険をご利用の高齢者と関わっていますが、コロナの影響で、基礎疾患を持つ方が多いので、訪問も控えざるを得ないため接する機会も少なくなっている現状です。

団体として定期的を開催する研修についてもなかなか実施できず、先月、中澤先生からのお声掛けでやっと研修会が開けた状況です。

高齢者を取り巻く環境としては、口腔体操などを独自で実施している施設も多いので、通所されている方は口腔のチェックもできているのではないかと思います。しかし、コロナの関係で休まれる利用者さんも多いことや、あとは訪問歯科診療に施設に来られる歯科医院も少なくなっており、苦しい状況が続いています。

(尾山委員)

やちよ元気体操グループの尾山です。

現在八千代では、65歳以上の高齢者が5万人ぐらいおり、やちよ元気体操には約3000人ぐらいが参加しており、90グループぐらいが市内で展開しています。

コロナの影響でこの2月末からほとんど中止となっています。

高齢者は持病があり感染リスクが高いということで、外出の自粛を徹底していて、逆に通院も含めて控えてしまっている状況があります。

そのため孤独や不安やストレスが増えています。運動不足や間食の増加により体重も増えてしまっています。

それから会話が減少して、自ずと口腔の機能が低下してしまっています。かつ脳トレの機会も減少したり、家に居るものですからテレビの視聴時間が長くなって眼精疲労・肩こり・歯の痛み・難聴などいろいろな困りごとが出てきたなどと聞いています。

高齢者ではマスク着用による呼吸困難もあり、鼻呼吸から口呼吸になってしまうなどマスクによる弊害が出てきたのではないかと思います。人目を意識しないために、表情を作ることが減っていて表情筋が衰えたり、会話が減って声も小さくなってしまっています。マスクの衛生管理について手間暇含めて高齢者にとっては大変さがあります。

これまでずっと集まってやちよ元気体操やストレッチ、音楽体操、口腔体操やあいうべ体操などに取り組んできました。今は、これらを各自で家で日課として取り組むという捉え方をしていこうとしています。

この中で、自己管理できるようなセルフチェックシートを用意して各自が自己管理をして、口腔機能も含めて高めていこうという努力をしている段階です。

電話連絡網を使ってコミュニケーションを図ろうとしています。コミュニケーションを取るうえで非常にシャイな方も多くて、何とか少しでもサポートできたらと考えているところです。

(木下委員)

八千代市長寿会連合会の木下です。

老人会は今約50ぐらいのクラブがありますが、残念ながら今年度歯や口腔に関する研修会を開催したという話は聞いておらず、研修会等の活動は止まっている状態です。

私的なことで申し上げますと私は80歳になりました。

歯はずっと良かったのですが少し痛んだので歯医者さんに行きましたら、痛い方の反対側が相当悪くなっていて抜歯して先生の方で入れ歯を作ってくれました。それがすごくマッチングしまして、初めての入れ歯でしたがよく噛めるし片側でばかり噛んでいたのが両側で噛めるようになりましたし、食事のたびに外して洗えるのでついでに口のケアを非常に良くやるようになりました。口腔ケアをしっかりとやるようになったことが功を奏しているのか非常に今健康です。

このように、自分で痛みを感じなくても治療をしなければならないものがあるんですね。高齢者中心に自分の歯はどうでもいいや、ではなくて、やはり歯医者さんに行ってチェックしてもらうことが大事だと啓蒙活動を続けていくべきではないかと感じた次第でございます。

(大岩委員)

八千代市PTA連絡協議会の大岩です。

2点ほどお話をしようと思います。

1点目は小学校のPTAでちょっと聞いた話では、歯科健診の時に近隣の市でフッ素を塗ってくれるところがあると聞いて、八千代市でもぜひやってもらえると嬉しいなと思います。2点目は、個人的なんですけど毎年、年に3、4回の定期健診に行っています。八千代市に転入してきて17、8年になりますが、3回歯医者さんを代えています。

歯科医院を代えるたびに痛みはないのに大きなむし歯が見つかるんです。そこでレントゲンを撮ることが大事かなと思うようになりました。初診時は撮影してくれますが、せめて5年に1回はレントゲンを歯医者さんも推奨して下さるとありがたいです。

(立川委員)

八千代商工会議所の立川です。

我々の方は商工団体で、口腔の重要性ということが非常に良くわかりました。

健康は体だけのイメージでしたが、歯や口腔も含めて健康だということが非常に勉強になりました。我々が普段接している経営者の方も健康でないと様々な判断などできないと思います。この会議に参加して口腔の重要性を知ることができたのは収穫でした。

(中澤委員)

八千代市歯科医師会の中澤です。

まずガム噛みトレーニングについて、行政の方々ご協力いただきましてありがとうございます。協力医が25名おり、歯科医院でも指導して下さると思います。

ガム噛みトレーニングは、8020財団から助成金をいただいて、調査研究を続けており、歯科医師会の協力医から集まったデータを統計処理していく予定です。

次に、新型コロナウイルスに関連した高齢者施設での口腔ケア問題という論文は、千葉県歯科医師会とともに介護施設のご協力のもと調査研究したものです。緊急事態宣言を受けて多くの高齢者施設が閉鎖されました。その間、口腔ケアが不十分になり、コロナではなく誤嚥性肺炎で亡くなる高齢者の方々が増えるのではないかと非常に心配しました。

調査の結果、口腔ケアの不備に伴う肺炎とか発熱などの症状が発症した入所者の方々

50%以上という結果が出ました。これはもう大変な問題です。

ぜひ、歯科医師及び歯科衛生士によるプロフェッショナル口腔ケアを無くさないでもらいたいというふうに提案させてもらいました。県議会議員に相談して6月の定例会で提案していただいて、県では万が一第3波が訪れても口腔ケアを継続していこう、ということになりました。

また、先日老年歯科医学会で、九州大学で非常に面白い取り組みをしていました。

もともと、歯科医師及び歯科衛生士による専門的な口腔の管理をしていけば、週1回の管理で入院期間が非常に減るというエビデンスが出ていました。

それがさらに歯科専門職ではなく、介護事業者の方々にも実習を含めて口腔ケアを学んでいただき、その介護職員の方たちが口腔ケアを週2回すると、肺炎などによる入院期間が3分の1まで減るとのことです。これは画期的なことだと思い、八千代市の摂食嚥下リハビリテーション研究会でも提案し、今後歯科医師会の方にも提案してそういった教育をしていく取り組みも進めていきたいと考えております。

他に、八千代市摂食嚥下機能低下防止研修はコロナの影響で中止になっていましたが、令和3年3月3日に開催する運びになりました。ZOOMによるオンライン形式で開催予定です。スマホでも視聴できますのでぜひご参加いただければと思います。

そういうことがうまくできるようになったのには、今回八千代市の医師会が「NPO法人やちケア」を立ち上げてくださったことが大きいと感じています。

八千代市内の地域包括ケアに我々も参加させてもらって、市民の方々も含めて参加していけるような会議にしていこうと考えておりますので、今後ともよろしくお願ひします。

(鷺委員)

歯科医師会の鷺です。

学校健診に行きましたが、お口の中が乱れているお子さんを多く見かけました。ステイホームということで外出もできなくてストレスが溜まっていることも見受けられるようなケースもありましたし、県の歯科医師会の方にもお邪魔していますが、そちらの情報から虐待件数が増えているということも聞いています。

何か理由があれば一歩外に出られると思うので、その理由の一つに歯科健診を活用していただければいいのかなと思います。

先ほど木下委員からもおっしゃっていただきましたが、自分で気づかないことが多々あると思います。何か問題があればそこで解決すればいいし、今時期が悪ければ、これぐらいの時期までは大丈夫だろうという予測も立てられると思うので、まずは情報を得るということはすごく大事なかなというふうに思っております。

そのために我々をうまく活用していただけるとありがたいなと思っております。

あと、商工会さんはちょっと違うのかもしれないのですが、今、労働基準局の方で労働者の健康管理がかなり数年から厳しくなっているかと思ひます。

産業歯科医ということで、一般と、あと歯科特殊健診の依頼等々来てる案件もありますので、もしそういったご相談があれば、歯科医師会の方にぜひご相談いただければ対応できるようにしておりますので、よろしくお願ひいたします。

あと、フッ化物の話ですが、以前一部の学校でフッ化物洗口を実施しておりました。予

算の関係等で今中止になっていますが、我々としてもできる限りそういったいいものを活用して環境を整えていきたいなと思っておりますので、ぜひPTAの方から要望を出していただければ、教育委員会の方もご協力いただけたと思いますのでぜひよろしくお願いいたします。

(平出会長)

コロナ禍においてみなさまがいろいろご苦労されているのがよくわかりました。今回のウイルスがなかなか厄介で、無症状、要するに症状が出ない方から感染するなど、いつ誰がどこでなっても不思議ではないウイルスであると思います。

とは言ってもかかってはいけない病気だと思うので、やはり日頃から密を作らないとか、うがい手洗いの基本的なことを徹底して、これからいろいろなものをみんなで考えて改善しながら前に進んでいくのがいいのかなと考えています。いろいろご活発なご意見をいただきましたので、今回出たご意見をもとに事務局の方ではご検討いただいて参考にさせていただきたいなと思います。

議題2) 歯科医師講話

(平出会長)

続きまして私の方から、コロナ禍における口腔保健の課題という題でお話をしたいと思います。本日は、15分という短い時間でのお話になりますことをご了承願います。

みなさまの頭に浮かぶのは、コロナ禍においてそもそも本当に歯科医院に行っているのかということではないでしょうか。実際私の診療所にも多くの患者さんから「来てよかったのですか?」と尋ねられることは多々ありました。

ある調査ではコロナ禍において、約半数の方が歯科医院への通院を自粛していました。通院自粛における男女比は、ここにありますように男性45%、女性55%という結果でした。自粛の主な理由は、「歯科医院は感染率が高いと聞いていたので」「歯科医院に行くとコロナになるのが怖いから」「先生にコロナをうつすと悪いから」とかそのようなご意見を聞いていました。

緊急事態宣言が解除された後も、新しい生活様式の実践、3つの密の回避を中心とした行動変容が求められています。新しい生活様式の感染防止の三つの基本には、まず身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いが挙げられますが、歯科診療では歯科医師との距離は確保できませんし、お口の中の治療となりますから、マスクの着用もできないことなどから、不安を感じている方は少なくないと思います。

実際のところ、歯科診療は危険なのか、それとも安全なのか。

これは身体的距離の確保ができないこととマスクの着用ができないということですね。診療所ではどうしてもそれは避けられません。歯科医師は、もともと血液や体液に暴露されることが多いので、常にマスクや手袋を着用して感染対策をしております。

つまり、新型コロナウイルスの主な感染経路である飛沫感染と接触感染に対しては、すでにコロナ禍以前より、各歯科医院では感染防止対策としてスタンダードプリコーション、標準予防策と言われるものを実施しておりました。さらに今回の新型コロナウイルス感染症に対し、ゴーグルやフェイスガードも着用しています。

歯科医師自身が毎日の検温と健康管理を徹底し、マスクと手袋を着用して診療していることを考慮すれば、飛沫感染や接触感染によって治療中に歯科医師から患者さんに感染するリスクは低いと考えられます。

ちなみにスタンダードプリコーションとは、感染の有無にかかわらず、すべての患者さんを対象に感染の可能性があると思われ、患者さんや医療従事者による感染を予防するための予防策のことです。

新型コロナウイルス感染症の飛沫経路で気になるのは、エアロゾルを介した感染です。いくつかの歯科診療ではエアロゾルが発生することがわかっており、小さなエアロゾルが発生すると、数時間は空気中を漂います。症状のない方からでも、感染が広がることを考えると、エアロゾルが発生する処置が必要なすべての方の歯科診療で、エアロゾル対策が必要不可欠となります。

そのため、多くの施設では、エアロゾルに対する感染対策として、吸引力の強いバキュームや口腔外バキュームなどの使用、空気清浄機の設置や換気を頻回に行うなどの様々な対策がとられています。

患者さんから患者さんへの感染を防ぐために、オープンスペースの歯科では、患者さん同士の距離を2メートル以上離して診療することや、待合室での密集密接を避け、感染を防ぐために予約を制限して、患者さんの数を減らしパーティションや空気清浄機の設置、及び環境からの感染を防ぐために、おもちゃや雑誌の撤去、定期的なトイレやドアノブなどの高頻度接触箇所の清掃や密閉を避けるために換気などの処置が多く施設で行われています。

また、感染疑いのある人は受診しないということも重要となります。発熱のある方や新型コロナウイルス感染症の方と濃厚接触にある方は受診を控えていただくか、まずはかかりつけの歯科医院に連絡して対応を確認する必要があります。

新型コロナウイルス感染症により、味覚、嗅覚障害が発現することが報告されており、発熱などが無い方であっても、新型コロナウイルス感染症疑う場合は、歯科受診する際には、電話で受診可能かどうかを確認していただきたいと思います。受診する際に、患者さんの体温、健康状態を確認し、発熱や呼吸器症状、味覚嗅覚障害などの新型コロナウイルス感染症が否定できない場合は、可能であれば診療を延期するなどしていただきたいと思い、噂やデマに惑わされることなく、私たち一人一人が正しい知識を持ち、感染拡大を防いでいくという自覚を持つべきと考えております。

さて、過剰に感染を恐れて歯科診療おろそかになると、先ほどお話もありましたけれども、昨年は歯と口腔の全身の健康との関わりについてのお話をさせていただきましたが、お口の健康は全身にも影響をおよぼします。緊急性のある症状は我慢せず歯科医院に相談しましょう。

健康を保つためにも歯科診療は必要ですし、高齢者ではむし歯や不衛生な口腔環境は肺炎のリスク増大に関与することが報告されており、日本歯科医師会などが提示した感染対策及び現在歯科医師会の医療機関で実施している新型コロナウイルス感染症に対する様々な感染対策を考慮すると、むやみに受診を控えず必要な歯科診療を受ける方がメリットは大きいと思います。

それでは、本来の口腔保健の課題について考えていきたいと思います。

すべての人々が生涯にわたって口腔機能が維持されるために、口腔保健に関わる基本的な課題としては、特に4つの点を挙げることができます。

まず、確実なう蝕予防対策。小児のう蝕罹患状況は確かに減少傾向にあります。しかしながら、地域間格差の問題と成人高齢者等の課題はまだ解決されているとは言えません。歯の喪失の原因の半数はう蝕であり、喪失防止や口腔機能を損なう疼痛の軽減など、科学的根拠に基づく確実なう蝕予防対策が必要です。フッ化物洗口及びフッ化物配合の歯みがき剤の普及を初めとしたフッ化物応用の推進がさらに求められます。

2つ目に、成人期における、歯科健診保健指導の体制整備。歯の喪失のもう一つの大きな原因は歯周病です。歯周病の予防や歯の喪失防止には、歯科医院において定期的なメンテナンスを受けることが効果的であることが報告されており、定期的に歯科健診を受けられる環境を整備していくことが必要不可欠です。ここでいう歯科健診とは、単に疾病をスクリーニングするだけではなく自立的な意識と、歯科受診を含めたセルフケアを啓発促進するための保健指導も含まれています。

しかも、地域職域と歯科医院が連携できるシステムの構築により生活習慣病予防に貢献していくことが必要と考え、この趣旨に基づくプログラムが2009年に日本歯科医師会から公表され、誰でも利用できるものとなっており、3番目に、高齢者、要介護者による、歯科医療提供体制の整備と口腔機能の保持に関してです。

疾病別の通院率で見ると、歯科疾患は高血圧、腰痛、について、第3の高い受療率となっています。しかしながら、高齢者、要介護者、或いは障害者の中には、様々な要因から、実際の受診に結びつかない人々が存在し、在宅医療の推進を初めとした多職種連携によるシームレスな、歯科、医療系提供体制の整備が必要と考えております。

4番目に、口腔と全身の健康と関連を基盤とした医療連携に基づく歯科医療提供体制の整備ですが、各都道府県では、4疾患5事業に関する医療計画の見直しがされており、多くの都道府県で歯科が位置付けられていますが、具体的な取り組みはまだ十分とは言えません。

一方2010年には糖尿病連携手帳。及び糖尿病治療ガイドに糖尿合併症としての歯周病が明記されました。また、日本歯科医師会と国立がんセンターの連携により、がん患者さんの口腔ケアを地域の歯科医院が担うという連携事業がスタートしています。

このような具体的な疾病別の対応に歯科を位置付けていくことが必要です。

まとめとしてすべての人々が生涯にわたって、口腔機能が維持されるため、口腔保健に関わる基本的な課題として、以上の4つの点を推進していく必要があると思います。

歯及び口腔の健康を維持することは、食事、咀嚼、会話をはじめとした国民の質の高い生活を直接支えるとともに、生活習慣病予防や介護予防など国民の健康維持増進にとっても重要です。

そしてそれを実現していくためには、関係者の連携協力に基づく生涯を通じた効果的口腔保健推進体制を確立していくことが、介護・高齢者、障害者、健康増進・医療費適正化、食育等の各施策と、口腔保健医療との連携を確保することが必要となっています。

第2次健康まちづくりプランを推進し、市民の皆様が健康で文化的な生活を営み、生きていることの幸せをみんなが実感できるまちを目指して、力を合わせて参りましょう。

ご清聴ありがとうございました。以上です。

最後に事務局より事務連絡をお願いいたします。

3 事務連絡

(事務局) 大澤

本日は皆様から頂戴したご意見は、今後の歯科保健の推進の参考にさせていただきます。

みなさまの委員の任期は令和3年6月30日までですが、実質、今回の会議が最終となります。お忙しい中ご出席いただき、貴重なたくさんのご意見をありがとうございました。

今後はこれまでの会議で積み上げたものをベースに、さらに歯と口腔の健康づくりを推進していきたいと思えます。

4 閉会

(平出会長)

本日は皆様本当にありがとうございました。

繰り返しになりますが、市民の皆様が健康で文化的な生活を営み、生きていくことの幸せをみんなが実感できるまちを目指して、今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは令和2年度第1回八千代市歯と口腔の健康づくり推進会議を閉会いたします。